



*Assumption beatae  
Mariae Virginis in caelum.*

*Sancta Maria, mater Dei,  
ora pro nobis peccatoribus,  
nunc et in hora mortis nostrae.*

すまよし

2008年 被昇天号  
第175号

## 聖 句

着る物のことをなぜ思い煩うのか。  
野のゆりがどのように育つかをよく見なさい。  
ほねおることも、紡ぐこともしない。  
あなたがたにしておく。  
栄華をきわめたソロモン王でさえ、  
この花の一つほどにも着飾ってはいなかった。

マタイ 6 章 28 ~ 29



[目次](#)

## 《 夏の思い出 》

オマリー神父

今、夏をそんなに楽しんでいないのですが、子供の時、夏はとても楽しかったです。今は暑さにたえられないのですが、子供の時は暑さの中でのびのび成長していきました。

学校から解放されて、朝から晩まで近所の子供達と一緒に遊んでいました。おにごっこや、缶けり、野球をしておりました。または、ひとつの紙袋の中に、食パンとピーナッツバター、一本のナイフと飲み物を入れて、下の弟達を連れて近くの公園へ行って遊んでおりました。私の故郷シカゴでは、湖が近かったので時々泳ぎに行きましたが、なかなか上手になりませんでした。

ひとつ、印象深く残っているのは八月十五日頃、シカゴのアイランド系の人々が集まって、マリア様を記念する夏祭りを行っていました。アイランド人の中には、マリア様に対する信心がとても深かったのです。そのイベントで、アイランドの踊りや歌のコンテストが行われました。アイランド系のアメリカ人である私にとっては、とても楽しいお祝いでした。父と母の故郷を直接知らなくても、そのイベントでアイランドの雰囲気を楽しむことができました。

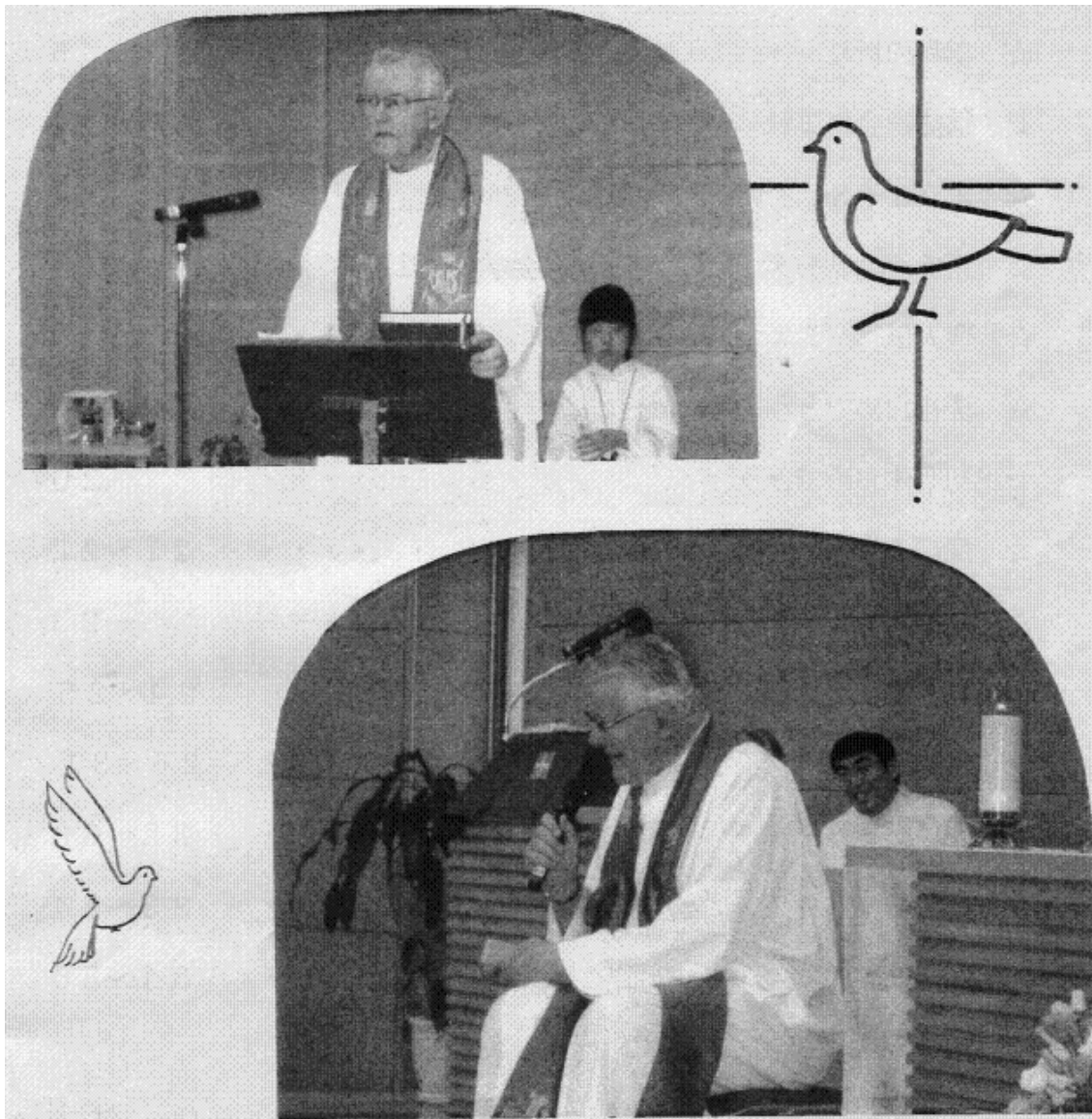
私達にとって、八月の中心はマリア様の被昇天のお祝いです。でも、日本ではお盆も大切です。八月を通して、色々な遊びによって家族の絆を深めることができます。ですから、八月の間に家族とでかけるのは大切です。親子で一緒に遊べば、その家族の絆がますます深まります。また、お盆に家族のみなさんが集まって亡くなられた方々を偲べば、家族の絆が強くなります。

現代人にとって、家族のルーツはとても大事だと思います。今、生きている親戚との交わりや、亡くなられた先祖との交わりによって、人はより安定した人生を歩むことができるのです。だから、マリア様の被昇天のお祝いを中心に、平和のために祈りましょう。平和をもたらすために、家庭が平和であることは大切です。その家庭内の平和によって、子供達が平和をもたらす人として成長していくのです。家庭内の平和がないと、子供は心の落ち着きを得る事ができません。もちろんどんな家族にも、足りないところはあるのです。

夏の間、私の家でも兄弟げんかがありました。しかし、けんかがあっても兄弟の絆は弱まりませんでした。理由は、やはり家族の大きな信仰の力でした。

信仰の中から真の平和への意識が芽生えてくるのです。だから八月に入っても、暑くなってきても信仰によって生きることを休むことはできません。特に、八月の間に平和旬間を行って、家族全員、親子で世界平和のために祈って家族

のなにかのしるしによってその心を表すようにしましょう。たとえば、平和旬間の間に、家族そろって平和のために祈りましょう。朝でも夜でもかまわないのですが、行うように努力していきましょう。平和は、全世界の家族のために、どれほど大切であるかを子供達に意識させて、私達キリスト者として、主の心にかなう平和のために努力していきましょう。どうか八月を通して、暑さに負けず、一人一人が平和の道具として成長していくことができるよう祈りましょう。



オマリー神父様はこの春から中央教会にいらっしゃいます。  
6 月には住吉でミサを司式して下さいました。そのときの写真です。

《 目次 》

<a href="#">聖句</a>	.....	2
<a href="#">夏の思い出</a>	オマリー神父 .....	3
目次	.....	5
平和の祈り	.....	(5)
<a href="#">信徒総会議事録</a> から	.....	6(6 ~ 14)
<a href="#">ようこそ Sr.スザンナ</a> /評議会メンバー	.....	6 (15)
新チームリーダーになって(教会学校・広報)	.....	(16)
聖人伝シエナのカタリナ	.....	(17)
洗礼おめでとう.	.....	(18 ~ 19)
初聖体おめでとう	.....	(20)
飛び入りのお客様	.....	(21)
<a href="#">シスター阿部羊子のお話</a> から	.....	7
<a href="#">図書コーナー</a> から	.....	8
家庭集会(A 地区 B 地区)	.....	(24 ~ 25)
<a href="#">教会学校では</a> (子どもたちの活躍)	.....	9(26 ~ 31)
恒例バーベキュー	.....	(32 ~ 33)
ご存じですか?どんぐり!ご意見箱!	.....	(33 ~ 34)
信徒動静・教会日誌	.....	(34 ~ 36)
<a href="#">後記</a>	.....	10

題字: 千葉 健吉  
表紙画: 南浮由美子

太字はこのホームページ掲載 PDF ファイルのページ、カッコつきは原本のページです。



## 《信徒総会における赤波江神父様のお言葉と終わりの祈り》

昨年の 7 月に赴任してまだ 1 年たっていないがもう数年居るように思います。皆様から大事にしてもらって居心地よく生活していますが、話を聞いていると一見穏やかなようでいて、様々な問題を含んでいる事を感じ、どこの教会も同じだなと思います。名簿はお互いを知るためにやはり大きな問題、名簿が難しければ他に新しい方法を模索する、お互いに知らなければ一致出来ませんからね。いい方法を皆さんと一緒に考えていきたいと

思います。宣教というのは人間の働きではなくて、人間を通して働かれる神の技だという事を念頭に置かなければいけないと思います。あまり活動に重きをおくと、地が出て争いになったり、分裂を招いたりします。

大切なことは聖霊の一致です。キリストの現存、キリストが今生きておられる、私たちが一致できるのは話し合いや和解し合いではなくて、聖霊を通して一致できるんだという事をいつも忘れてはいけないと思います。そうしないと教会の活動は空回りになります。ご聖体を中心として聖霊における一致という事をこれからの永遠の課題として心に留めて行きたいと

思います。霊的な力がなければどこかで行き詰まってきます。聖霊における一致、キリストの現存ということエネルギーにしていきたいと。神戸中央教会との共同宣教司牧ですから何らかの方法でお互いを知り合う事を大切にしていきたいと。

### 祈り

慈しみ深い父なる神よ

どうぞこの私たちの共同体を顧みて下さい。宣教というのは私たち人間の業だけではなく私たちを通して働かれる神の業であるという事を私たちに悟らせて下さいますように。

あなたの息を送って下さい、全てが新たになるように

あなたの息を送って下さい、全てが新たになるように

父と子と聖霊のみ名によって アーメン

## 《シスター・スザンナようこそ！》

名古屋へ転勤なさったシスター・ヨハンナの後任にシスター・スザンナがいらしてくださいました。ミサの後、子供たちにお話しして下さる光景です。

どうぞよろしく！



## 《シスター阿部羊子(聖パウロ女子修道会)のお話から》

7月21日の神戸中央教会で行われる地区養成チーム講演会に先立って20日に住吉教会の主日ミサに来られ、タイの挨拶、手を合わせて「サワティ・カー」と仰しゃりながら赴任なさってからの14年間のことをお話して下さいました。

14年前(大地震の前で、それまでは6年間、当時三宮の花時計の東側にあったパウロ書店ではたらいておられました)、「タイへ宣教に行くように」とのお話があり、50歳を過ぎていたけれども「神様おのぞみならばどうぞご自由にお使いください」と、暑いのと辛いのが大の苦手だったけれど暑くて辛いタイへ行くことになりました。先ずフィリピンで英語の勉強をしてからタイへ。タイ語の学校は一ヶ月で登校拒否になり、止めて後は個人的に教えてもらいながら一人で勉強。

街の様子を見るために安価な路線バスに乗ったりして、心のアンテナをピンと立てて神様の教えを求めながら珍しい文化、言葉の違いを学ぶ。活動地のバンコックでは日本人のシスターは一人。一緒に暮らすシスターはフィリピンの方なのでその文化の違いを学ぶ事も大きかったとのこと。

タイは94%が仏教、あとイスラム、儒教が多い。神様に仕える人を大切に  
する国。人々は信仰深く宗教は全く  
自由です。

そういうタイでどうやって宣教しようかと探していたときに気がついたのが日本の漫画を熱心に読む子供の姿が多いということでした。そこで東京の女子パウロ会が以前に発行した漫画の「ベン・ハー」を、次に講談社と交渉して



「漫画聖書物語」をタイ語で出版、とても興味を持ってもらえたとのこと。その間にヘルペスやメニエル病を患ったりしたけれど又元気になり、タイ人の好みに合う方法を考えながら宣教しています。皆さんに私達の宣教の気持ちが伝わって、又、皆さんが宣教してくださるように。

「主よ、私がどうすることをお望みですか?」という問いを持っていたら教えて頂ける。ご聖体を頂いて聖書に親しんで、心配しないで生活していたらどこにいてもこわい事はなく、輝かせて下さると思っています。...と結ばれました。(編集部)

## 《 図書コーナーより 》

使徒パウロの生誕 2000 年にあたって教皇ベネディクト 16 世は 2008 年 6 月 28 日から 2009 年 6 月 27 日までを「聖パウロの年」と定め、この特別聖年を使徒パウロに捧げることを発表なさいました。今回はパウロ年開幕にあたり、彼に因んだ図書と DVD をご紹介します。

「キリストの使徒パウロ」 脇田昌子著 女子パウロ会発行  
聖書のパウロの手紙に基づいて書かれた彼の生涯の物語で、小、中学生は勿論のこと、大人にとってもやさしい聖書入門への誘いになっています。

DVD 「パウロ タルソスから世界へ」

使徒の生涯と宣教旅行ゆかりの地の映像など各 30 分 7 部構成でパウロを紹介しています。



「私はマザーに会った」

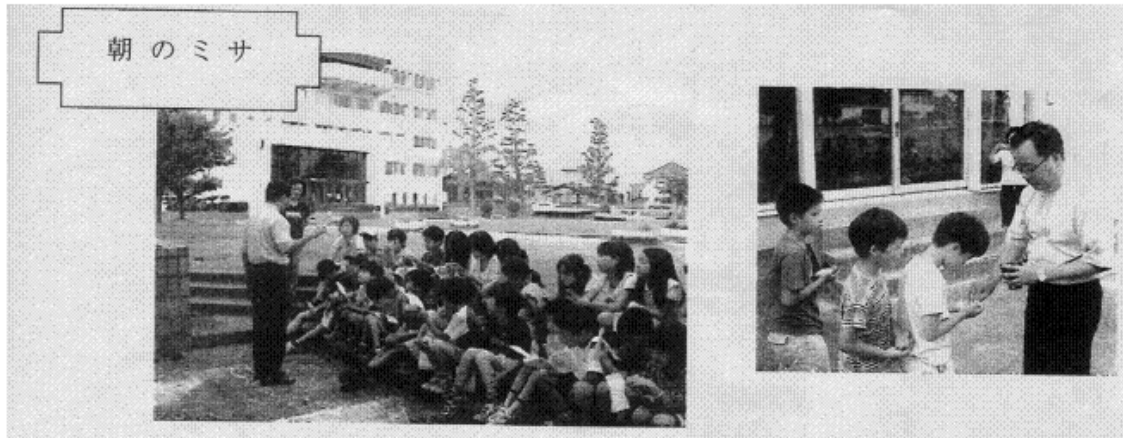
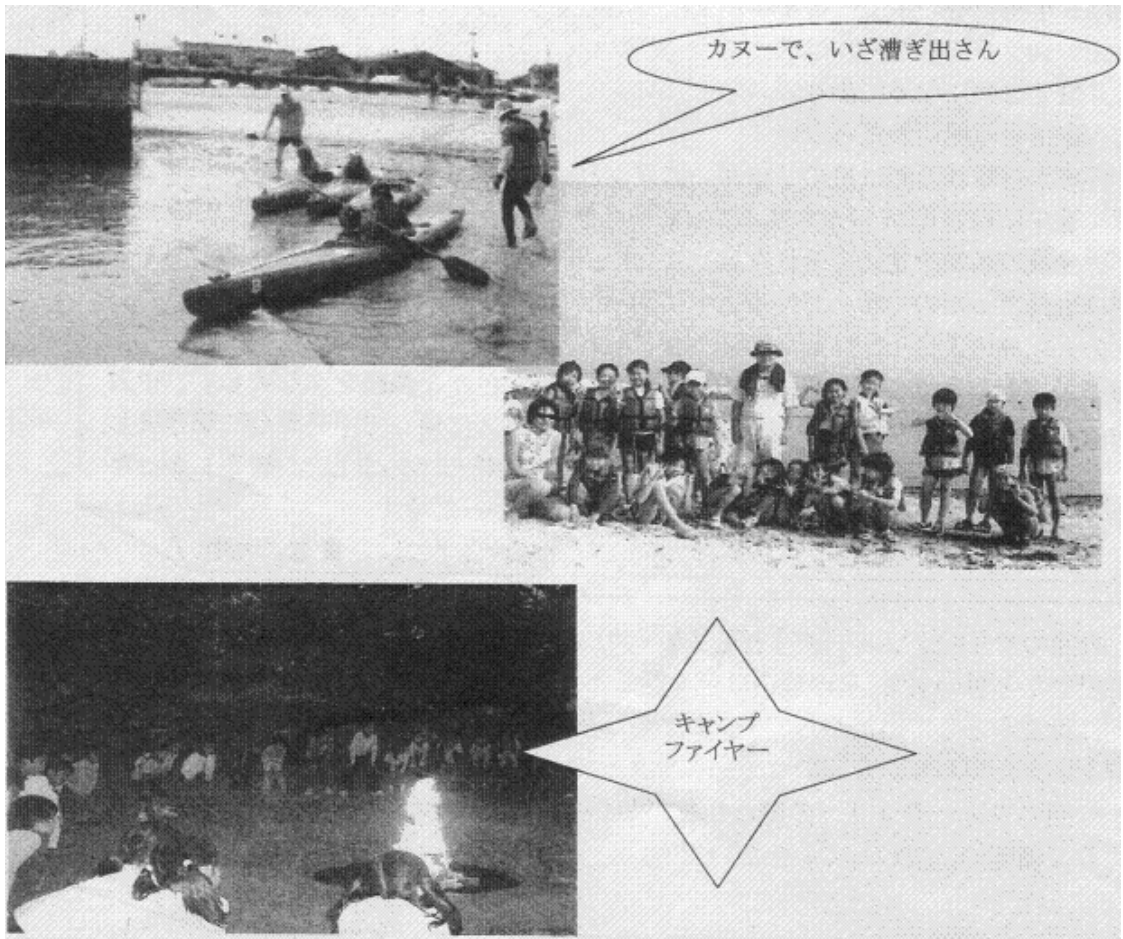
20 人が語るマザー・テレサのすがた。女子パウロ会編

激しさと限りないやさしさと。  
神と貧しい人々への愛に生涯をささげたマザーとの出会いを通して、人それぞれが受けた光と恵みの記録。 本の帯より



教会学校・夏のキャンプ(7月30日～31日)

明石自然の家



## 《 後記 》

竹内さんとポジションを交代して(またかと思われる!!!)編集のお仕事に戻ってまいりました。

7 月末に玉造で大阪教区の小教区の広報担当者の集まりがあり、若い方と一緒に出席しました。和歌山、赤穂、淡路からもご出席で、各教会の発行印刷物が展示されており、皆様のお話から、ずいぶん具体的な内容(経済的なこと、個人情報のこと、後継者が心細いこと etc)まで何うことが出来て大変興味深い集まりでした。教会によって規模が違うのは当たり前のことですから、与えられた場で力を尽くし、次の世代につないでゆけるように...と祈りをこめて「すみよし」をお届けしてゆきたいと思っております。よろしくご協力お願い申し上げます。橋本



### 《秋の行事のお知らせ》

- 9/14(日) 敬老の日。ミサ後落語会・茶話会
- 10/19(日) セニョール・デ・ロス・ミラグロス
- 11/2(日) 祈念祭(追悼祭)
- 11/16(日) 七五三、バザー



「すみよし」第 175 号  
発行日: 2008.8.15  
編集・発行: 広報チーム  
編集責任者: 橋本光子  
発行所: 神戸市東灘区住吉宮町 2-18-23  
カトリック住吉教会  
TEL: 078-851-2756  
FAX: 078-842-3380  
<http://www.sumiyoshi.catholic.ne.jp>  
製版・印刷: 信徒有志

